市報 ぎょうだ No. 860
平成30年2月1日 発行

行田 歴史系譜 287

歴史を語るこの〝いっぴん〟
～博物館の収蔵庫から～ 23

行田町年寄梅沢家御用日記

市指定文化財

行田町は阿部家が藩主となった寛永年間から城下町としての整備が進められていったと考えられています。館林道が通り宿場町の機能を持つ行田町には、公用で通行する人の宿泊や休憩のための本陣・脇本陣や、人馬の継ぎ送りをする問屋場が設けられました。これら公の業務を含めた町政全体を担ったのは、町年寄や表立（おもだち）といった町役人たちでした。

町年寄はいずれも戦国時代から江戸時代初期にかけて行田町に移住してきたと伝えられる旧家です。江戸時代後期には、吉羽家、梅沢家と、古橋家と樋口家がそれぞれ二家の計6家がありました。藩から苗字帯刀を許され、藩主への年頭への挨拶などでは、割役名主や村の名主より上座となりました。二家が一組となり月番で町会所に詰めて勤務にあたりました。

今回紹介する資料は、町年寄梅沢家が公務上の記録を記した日記です。梅沢家の初代図書（ずしょ）は文禄元年（1592）に下野国足利助戸村から行田町に移住し、二代目の図書から十一代覚次郎まで代々町年寄を勤めました。町年寄の屋敷は新町から上町に続く丁字路付近に集中していましたが、梅沢家の屋敷も現在の埼玉りそな銀行付近にあり、脇本陣を兼ねていました。

日記は文政2年（1819）から慶応4年（1868）まで27冊が残されています。二人一組で勤務にあたりますから、一年で役目を果たすのは4カ月ということになり、その月の分の記録が作成されたようです。町年寄は藩からの通達を町人に伝えるとともに、町人からもさまざまな願書が寄せられました。梅沢らはこれらの願書や行田町で起こったさまざまな出来事を藩に上申しており、日記にはこれらの案件が詳細に記されています。御用日記は江戸時代後期の行田町でどのようなことが起きていたかを知る上で欠かせない資料となっています。

（郷土博物館　鈴木紀三雄）

梅沢家御用日記

特定非営利活動法人 チャレンジプロジェクト

つながる ひろがる みんなのチカラ
～市民公益活動団体紹介～⑭

人々が生き生きとチャレンジできる地域社会の構築を目指し、福祉の増進や社会教育の推進に関する活動を行っているのが「特定非営利活動法人チャレンジプロジェクト」です。

平成19年に設立され、現在、会員は約10人。毎月の定例会に加え、郷土博物館で絵画展や写真展を開催したり、市内のイベントでペルーの民族舞踊「マリネラ」を披露したりと、これまで「心の癒やし」をテーマとしたさまざまな事業を展開してきました。

現在、特に力を入れているのが「ロコモーショントレーニング」と呼ばれる、骨や関節、筋力などの機能を向上させる軽い運動を組み合わせたトレーニングです。「健康長寿社会」の実現に向け、要介護や寝たきりなどの状態を予防するため、スポーツ科学トレーナーを講師に招き、いきいきサロンなどと協同で行っています。

これからも、ジャンルにとらわれず時代のニーズに応じた活動を目指したいと話す会員の皆さん。そのチャレンジが、人々が生き生きと活躍していくきっかけとなっていくことでしょう。

【代表理事】東　隆俊　【電話】556―5724

ロコモーショントレーニング測定風景

今月の表紙　1月7日、平成30年行田市新成人を祝う会が649人の参加のもと、産業文化会館で行われました。

華やかな振り袖や紋付きはかま姿などで同級生との再会を喜び、笑顔で記念写真を撮り合う新成人たち。これまで支えてくれた方々への感謝の気持ちと大人としての自覚を胸に、それぞれが輝かしい門出を迎えているようでした。

■市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）まで。
■市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
■市報をデイジー版に録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）までご連絡ください。

VEGETABLE OIL INK
環境にやさしい植物油インキ
市報ぎょうだは再生紙を使用しています

■編集・発行／行田市総合政策部広報広聴課
〒361―8601 行田市本丸2番5号
TEL 556―1111 FAX 550―2116